

## 実績報告書

届出者	住所	東京都港区赤坂一丁目1番1号	氏名	株式会社ザイマックスセンパル 代表取締役 東浦 定宏
特定事業者の主たる業種		56各種商品小売業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		商業施設（せんちゅうパル） 総延床面積：39,339,25㎡ 賃借区画数：店舗115区画、倉庫・事務所：74区画 計189区画		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
2017 年 4 月 1 日～	2020 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2016 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	2,807 t-CO <sub>2</sub>	2,526 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	2,968 t-CO <sub>2</sub>	2,673 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019 年度)	第1年度 (2017 年度)	第2年度 (年度)	第3年度 (年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.1 %	10.1 %	%
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.0 %	10.0 %	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

館内照明器具及び消費電力の多い照明器具のLED化・冷温水設定温度調整・受入流量調整による省エネ対策を行う事で、温室効果ガス削減に努める。
--

## (2) 推進体制

事業所内従業員で温暖化対策に取り組むような体制づくりを進めていき、対策会議の実施や省エネに関するマニュアル作成についても計画検討する。又テナン様新規入居時には積極的にLED器具導入を進めております。

## 実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市西区家原寺町1-1-1	氏名	地方独立行政法人堺市立病院機構 理事長 門田 守人
特定事業者の主たる業種		83医療業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		堺市立総合医療センターは、堺市及び南大阪への医療提供を目指して堺市で初めて複数の診療科にまたがる高度な三次救急医療を行う救命救急センターを備えて平成27年7月に移転、開院しました。 専用の手術室や集中治療室を備え、24時間態勢で重篤な救急患者を受け入れるとともに癌等をはじめとした幅広い疾患に対しても高度で専門的な治療を提供しています。また、大規模災害時の医療拠点になることから免震構造、自家発電設備、ヘリポート等を備え継続して高度な医療を提供できる機能を備えています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2017年	4月	1日	～	2020年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2016 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	7,067 t-CO <sub>2</sub>	6,342 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	7,613 t-CO <sub>2</sub>	6,831 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019年度)	第1年度 (2017年度)	第2年度 (年度)	第3年度 (年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	3.0 %	10.3 %	%
		削減率 (原単位ベース)	%	%	%
削減率 (平準化補正ベース)		3.0 %	10.3 %	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>市立総合医療センターでの初年度となり削減率(10.3%)の大幅な削減率が出来ました。次年度より今以上の努力・行動を実践、新たな方策を実施してまいります。</p>	次年度
---	-----

(2) 推進体制

体制等整備中

# 実績報告書

届出者	住所	大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪タワーA 35F	氏名	さくらインターネット株式会社 代表取締役社長 田中 邦裕
特定事業者の主たる業種		37通信業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		データセンター事業者として、主にコロケーション事業およびホスティング事業を行っており、府内に2か所のデータセンターを運営している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2017年	4月	1日	～	2020年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2016 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	8,336 t-CO <sub>2</sub>	7,432 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	9,159 t-CO <sub>2</sub>	8,177 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019 年度)	第1年度 (2017 年度)	第2年度 (年度)	第3年度 (年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	%	%	%
		削減率 (原単位ベース)	3.0 %	5.3 %	%
削減率 (平準化補正ベース)		3.0 %	5.2 %	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 売上 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>主たる事業所以外の事業所であるデータ堂島一部撤退に伴い、機器及びサービスの移設を府内外のデータセンターに対して行った。</p> <p>その際、府内にある主たる事業所の堂島IDCへサービスの移設を行った際に、機器の集約率が改善された。その結果、温室効果ガス排出量が低減された。</p>
--

## (2) 推進体制

- ・社内規程に基づきエネルギー管理体制を整備しており、管理統括者に執行役員、企画推進者に技術本部プロデューサー、管理員として特定事業所にエネルギー管理講習修了者を配し、温室効果ガス削減推進体制を構築している。
- ・ビル側と連携を深め、効率的な使用を追求する。
- ・温室効果ガス削減の観点のみならず、省エネルギーの観点を持って活動する。

# 実績報告書

届出者	住所	東京都中央区日本橋本町1-10-5 日産江戸橋ビル	氏名	サンアグロ株式会社 代表取締役 櫻田健一郎
-----	----	------------------------------	----	--------------------------

特定事業者の主たる業種 **16化学工業**

該当する特定事業者の要件	レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者

事業の概要

主に農業用、化成肥料の製造及び荷造りを行っており、全国で3工場稼働し、うち大阪府内では1工場稼働している。

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間
2017 年 4 月 1 日～ 2020 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2016 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	3,300 t-CO <sub>2</sub>	3,282 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,436 t-CO <sub>2</sub>	3,436 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2018 年度)	第2年度 (年度)	第3年度 (年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ	削減率(原単位ベース)	3.1 %	-9.1 %	%
削減率(平準化補正ベース)		3.1 %	-9.7 %	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 製造量 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

化成肥料工場及び半製品倉庫の照明のLED化(投光器120W×40灯⇒LED60W×40灯 水銀灯250W×4灯⇒LED131W×4灯)及びフォークリフトの更新(軽油⇒電気式)を実施し空調機の設定温度の厳守(夏季28℃ 冬季18℃)なども行い地球温暖化防止対策に取り組んでいる。

(2) 推進体制

全社的に温暖化対策に取り組むため現状の改善などを検討している。

---



# 実績報告書

届出者	住所	東京都千代田区大手町1丁目7番2号	氏名	株式会社 産経新聞印刷 代表取締役 寺塚良一
特定事業者の主たる業種		15印刷・同関連業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		産経新聞社100%出資の関連会社で新聞印刷業。大阪に3センターあり、産経新聞等の印刷を行っています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2017年	4月	1日	～	2020年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2016 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	8,461 t-CO <sub>2</sub>	8,733 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	9,185 t-CO <sub>2</sub>	9,510 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019年度)	第1年度 (2017年度)	第2年度 (年度)	第3年度 (年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0%	-3.3%	%
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.1%	-3.6%	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>現在は3センター共、生産に影響が出ない範囲で建屋設備を中心とした空調チラー・空調設備の運転時間見直しを随時実施。29年度は北摂及び大淀センターで受託印刷を夜時間帯に実施している事もあり、美原センター分の印刷部数が増えており、そのまま美原センターのエネルギー増となっています。大淀センターでは、R22を冷媒とするチラー・パッケージエアコンの更新を随時実施中でエネルギー減が期待されます。</p>
---

## (2) 推進体制

弊社は公共性のある新聞発行を行っている関係上、高品質な新聞を時間通りに読者にお届けする事を最優先としており、生産設備の稼働時間はニュース・号外体制等で大幅に変わります。現状は建屋設備の運用変更などで、毎年少しでも削減できるよう努力してまいります。

---

# 実績報告書

届出者	住所	大阪府枚方市春日北町3-1-1	氏名	株式会社サンユウ 代表取締役 西野 淳二
-----	----	-----------------	----	-------------------------

特定事業者の主たる業種	22鉄鋼業			
該当する特定事業者の要件	レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者		
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者		
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者		
事業の概要	<p>「事業内容」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■みがき棒鋼・冷間圧造用鋼線の製造、加工及び販売</li> <li>■一般鋼材の販売</li> <li>■上記に付随する一切の業務</li> </ul> <p>「工場・営業所数」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■2工場（枚方・八尾）</li> <li>■3営業所（枚方・八尾・東大阪）</li> </ul>			

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2017年	4月	1日	～	2020年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2016 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	6,067 t-CO <sub>2</sub>	6,158 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	6,625 t-CO <sub>2</sub>	6,666 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019 年度)	第1年度 (2017 年度)	第2年度 (年度)	第3年度 (年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	%	%	%
		削減率 (原単位ベース)	3.0 %	10.0 %	%
削減率 (平準化補正ベース)		3.0 %	10.8 %	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 生産数量 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>受注増による生産数量のUP及び省エネ機器への機器更新(照明のLED化など)また、電気購入先の変更(新日鐵住金エンジニアリング⇒関西電力)によりCO2排出係数が低くなったことなどが重なったため大幅な目標達成につながった。</p>
--

## (2) 推進体制

弊社は2006年6月にISO14001を認定取得し、現在、温暖化対策を初めとした環境改善活動を推進中です。  
活動の内容は、半年毎に「環境会議」を開催し全部門に向けて報告しています。

---

今後も、エネルギー管理統括者・管理企画推進者を中心に環境改善活動の強化を図る。

## 実績報告書

		大阪府大阪市北区天神橋2-4-17 千代田第1ビル	氏名	三和電子サーキット株式会社 代表取締役 伊藤 和也
特定事業者の主たる業種		28電子部品・デバイス・電子回路製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		プリント配線板製造		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2017年	4月	1日	～	2020年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2016 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	9,587 t-CO <sub>2</sub>	9,799 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	10,742 t-CO <sub>2</sub>	10,971 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019年度)	第1年度 (2017年度)	第2年度 (2018年度)	第3年度 (2019年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ	3.0%	2.8%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		%	2.9%	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産量 m <sup>2</sup> )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>平成28年度に対して生産量が約5.2%増加しており、それに伴い原単位当たりの排出量が削減できたと考えます。</p>
--

(2) 推進体制

当社の電気・ガスの使用量の把握を継続して行い、各従業員は一丸となり省エネ意識を持って生産活動を行っております。